



令和4年度共同研究の研究経過報告資料

# 小田原版STEAM教育

—小田原をフィールドとした探究的な学びの展開をめざして—

# 目次

1. 社会的背景ーなぜ今STEAM教育なのか？
2. 小田原版STEAM教育の考え方
  - 2-1 小田原版STEAM教育とは
  - 2-2 小田原版STEAM教育の特長
  - 2-3 小田原版STEAM教育で育む資質・能力
  - 2-4 小田原版STEAM教育を実現する手立て
    - ① 探究のプロセス
    - ② 生徒の学びの姿ー自己決定の場面の位置づけー
    - ③ 外部連携
3. 小田原版STEAM教育の見通し
  - 3-1 令和5年度の見通し
  - 3-2 モデル校での取組
  - 3-3 教育研究所のサポート体制

# 1. 社会的背景—なぜ今STEAM教育なのか？—

様々な社会問題  
激しく変化する社会情勢

社会的課題をどう解決するか？

学校教育では・・・

文系理系の枠にとらわれず、各教科の学びを基盤として、  
様々な情報を活用し、それら  
を統合して、課題の解決に結  
びつける資質・能力を身につ  
ける必要がある。

コロナ

ウクライナ  
侵攻

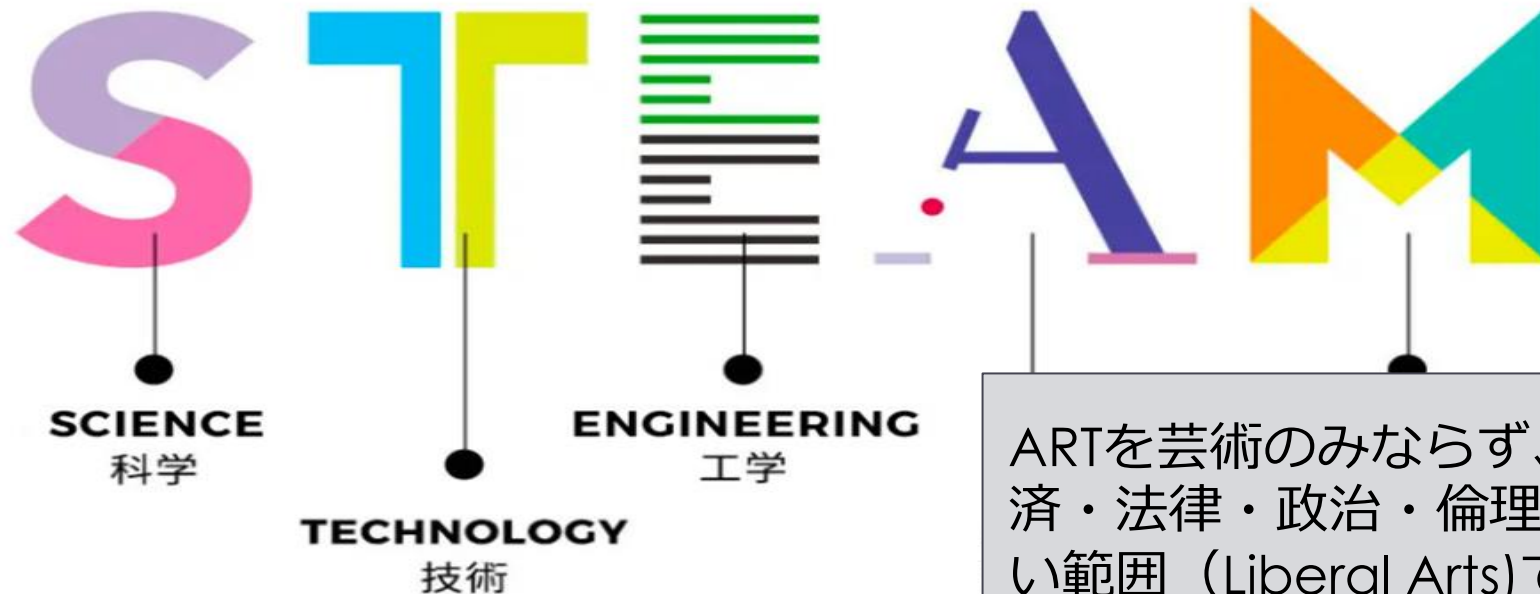
急速なIT技  
術の進化

価値観の多様化



# STEAM教育とはなにか？

= 各教科での学習を**実社会での問題発見・解決**に生かしていくための教科横断的な教育（中教審答申R3. 1.26）



ARTを芸術のみならず、生活・経済・法律・政治・倫理を含めた広い範囲（Liberal Arts）で定義

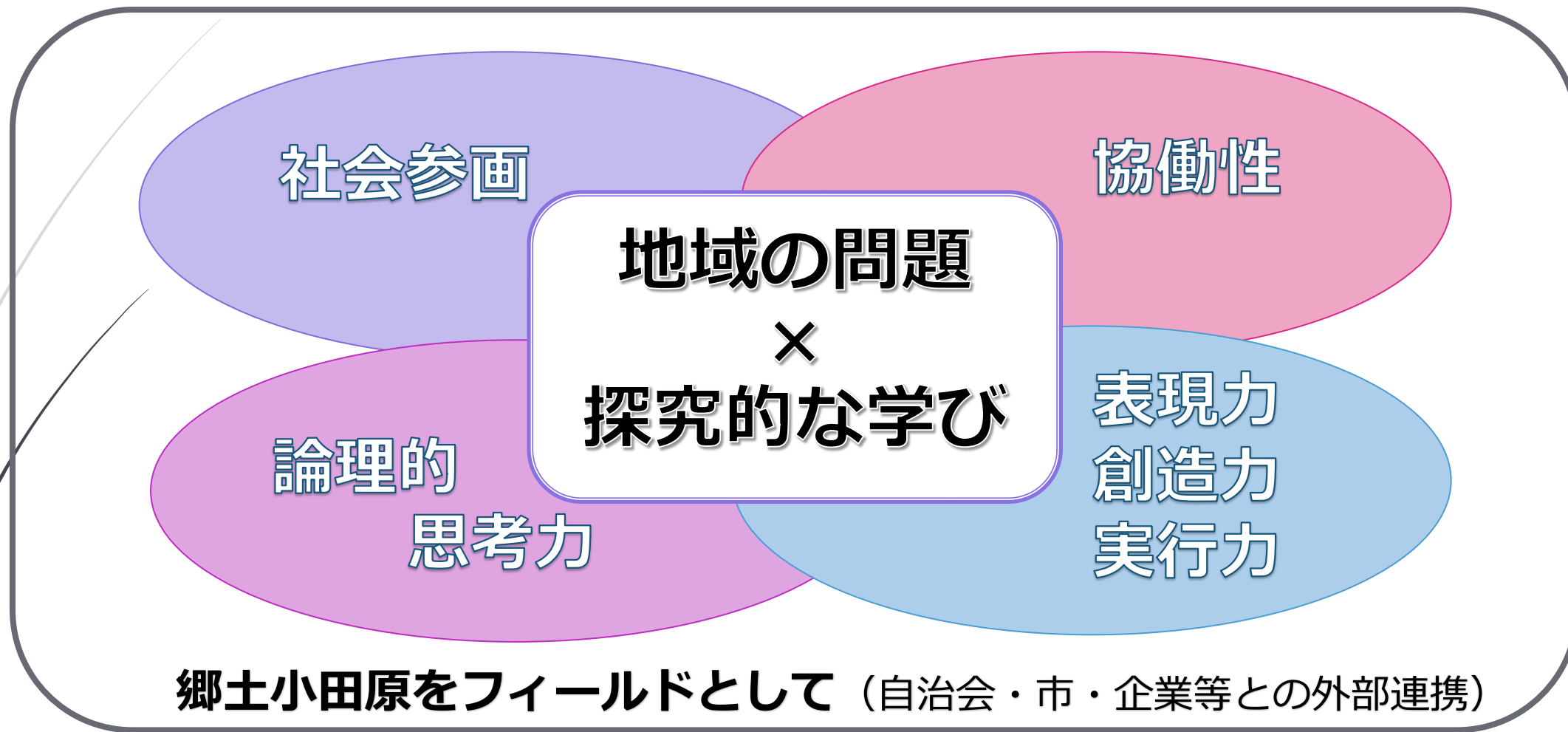
## 2-1. 「小田原版STEAM教育」とは

郷土小田原をフィールドに、生徒が身近な実社会の諸問題と出会い、その問題の解決のために教科で学んだことを統合的に働かせながら探究的、創造的な活動を行うことで、よりよい社会を実現しようとする資質と能力を育てるもの

中学校の「総合的な学習の時間」を中心に、各学年10～15時間程度を使って展開していく。



## 2-2. 「小田原版STEAM教育」の特長



## 2-3. 「小田原版STEAM教育」で育む資質・能力

	より良い社会を実現するための資質・能力
社会参画	地域をフィールドとして学習活動をし、身近な地域の諸問題に直接アクションを起こし、実体感を伴う学びにすることで、社会の一員としての自覚をもち役割を果たそうとする。
協働性	地域の諸問題を解決するにあたり、多様な他者と協働することの大切さに気づき、様々な地域の外部の機関や人材など、多様な他者と協働して活動しようとする。
論理的思考力	地域の中から問題を見出し、その解決に向けて仮説を立て、現状について「情報収集」「整理・分析」したことから解決策を考えるなど、根拠をもとに論理的に考える力をつける。
表現力・創造力・実行力	自分の考えた解決策などをアウトプットし、解決策を生活や社会に実装する、「表現力」「創造力」「実行力」を養う。

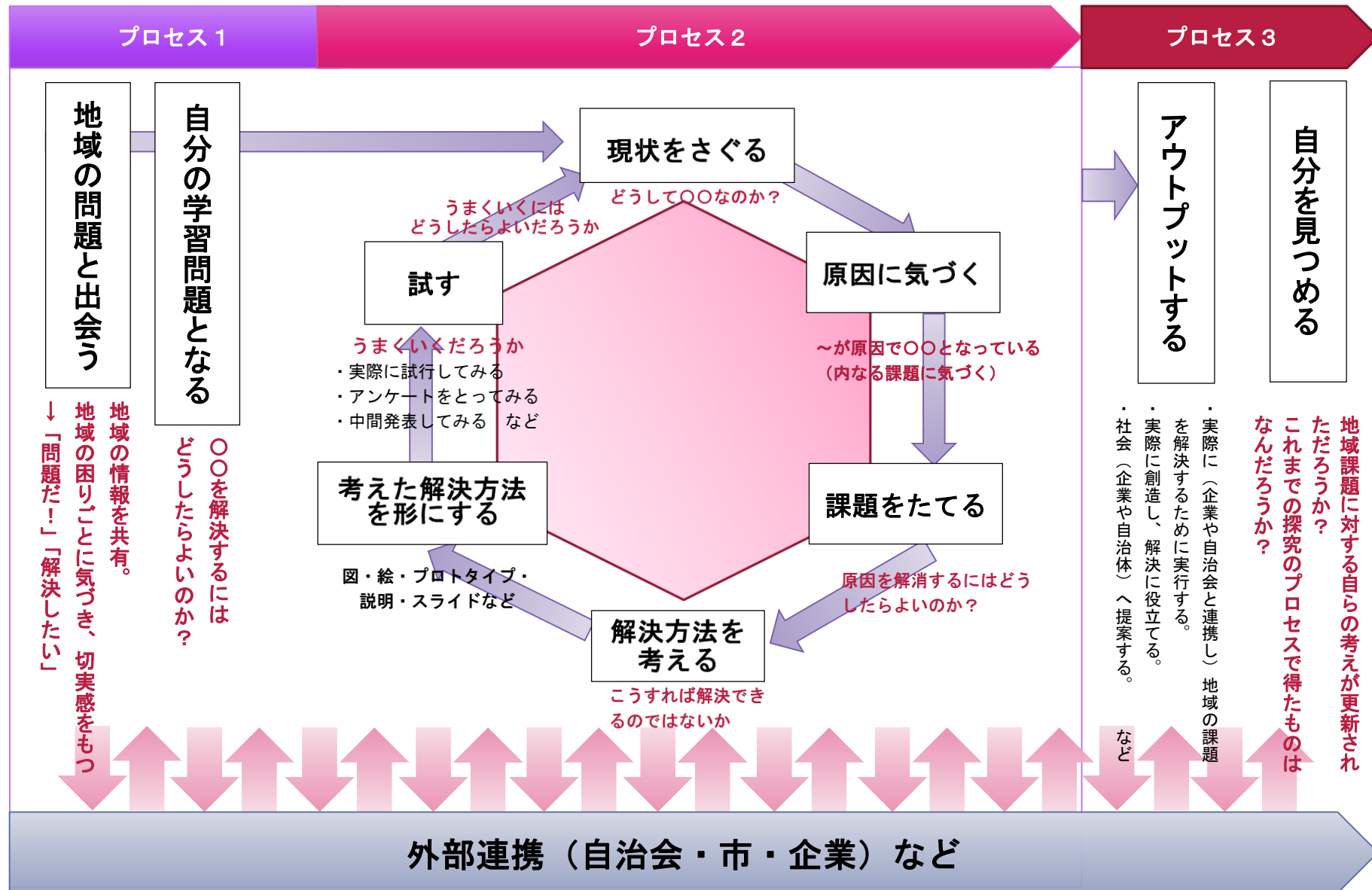
## 2-4. 「小田原版STEAM教育」を実現する手立て

地域をフィールドとした探究的な学びにする手立て

- ① 小田原版STEAM教育における  
探究のプロセスを明確にする
- ② 生徒の自己決定の場面を設定する
- ③ 地域の人材や情報との出会いの場を設定



# 2-4. ① 探究のプロセス



## 2-4. ② 生徒の学びの姿 ～自己決定の場面の位置付け～

	STEP 1	STEP2	STEP3
	基本的な探究の プロセスを体験する	問題発見以降 主体的な探究をする	問題の発見から 主体的な探究をする
(プロセス1) 問題発見	探究が主体的になるよう 教師が絞り込んで提示	探究が主体的になるよう 教師が絞り込んで提示	生徒が意思決定
(プロセス2) 課題設定 解決方法	生徒のアイデアを収集し、 合意形成のもと、一つに絞り込む	生徒が意思決定 集団・または個人で解決	生徒が意思決定 集団・または個人で解決
(プロセス3) 表現・創造・実行	生徒が意思決定	生徒が意思決定	生徒が意思決定

例

	STEP 1	STEP2	STEP3
問題発見 課題設定	<p>自治会の人と出会い、世代間の結びつきが弱い、困った現状を聞く。(教師が出会いの場を設定)</p> <p>→つながりを強くするにはどうしたらよいのだろうか？ (教師と生徒で問題発見・課題設定)</p>	<p>(学区を散策しながら気づきを促す)早川・大窪地区に魅力があるのに観光客が少ない。</p> <p>→観光客に魅力を知ってもらい、学区を来訪する人を増やすにはどうしたらよいか？ (教師と生徒で問題発見・課題設定)</p>	<p>小田原の未来を考えよう</p> <p>→夏休みに学区を歩いたり、市内の情報を集めたりし、小田原市がもっとこうだったらいいなと思う地域の現状の問題を自分で探す。 (生徒が自分で問題発見・課題設定)</p>
解決方法	<p>生徒のアイデアを収集し、合意形成のもと、一つに絞り込む</p> <p>→どんな人でもできる生涯スポーツを考え、異世代でつながったらよいのではないか？ (教師・生徒同士で話し合っで決定)</p>	<p>生徒が意思決定 集団・または個人で解決</p> <p>↓</p> <p>魅力をもっと発信 交通手段の改善 ガイドツアーの実施 外国語版ガイドマップの作成 (生徒が考え、グループに分かれて解決方法を見出す)</p>	<p>生徒が意思決定 集団・または個人で解決</p> <p>↓</p> <p>観光・防災・商業・農業・林業・交通・人口などカテゴリーに分かれて、生徒が解決方法を考える。 (生徒が考え、グループに分かれて解決方法を見出す)</p>
表現・創造・実行	<p>生徒が意思決定</p> <p>→それぞれ、スポーツを考え、試し、クラスで吟味する。健民祭で実行する。</p>	<p>生徒が意思決定</p> <p>→それぞれの解決方法を実行したり、創造したり、提案したりする。</p>	<p>生徒が意思決定</p> <p>→それぞれの解決方法を実行したり、創造したり、提案したりする。</p>

# サルの暴走 in 小田原

## ～小田原市内でのサルによる被害～

・1970年代から市南西部に住み着いたとされるサルによって、農作物を荒したり、民家を襲うなどの被害が相次いで、人々の生活を40年間脅かしてきました。そして、2022年5月に県の計画である「令和4年度神奈川県二ホンザル管理事業実施計画」がついに策定され、サルの駆除が始まりました。しかし、今もなお全では捕まっておらず悩まされています。



## ～サル（二ホンザル）の行動について～ 具体例

- ・畑に侵入して農作物を食い荒らす。  
(食べ物の残骸が目立ち、衛生的に良くない)
- ・集団行動をしている。(現在、s郡やh群がいる)

↓  
小田原市内にいる群れ

- ・小学生などの通学路に度々現れていて子供たちの安全を脅かしている。

## 通学路の困っていること



## ～問題点～

- 1,交通量が多い  
△通学路、駅に行く近道  
(城中生、相洋生など...)  
交通量が多いので平日と土曜日の7:30~9:00は車の通行禁止
- 2,道幅が狭く、車道より一段上がっている歩道がない  
車がすれ違う際、歩行者が避けなければいけない、車と人との距離が近い

# その他 生徒が会う地域問題の例

## 私の地域の課題



## 交通手段



「**少子高齢化**」今とても進んでいますよね。

私の近くにも、**高齢者**がたくさんいます。

今時街には高齢者に優しくするようなシステムがたくさんあり、とても住みやすくなっています。

しかし、、、私の住んでいる米神ではそもそもシステムが届きません。

近くに**コンビニ**はもちろん**スーパー**も、買い物ができる場所が「ちょっとそこまで、」の距離にありません。極めつけに、平日にのみ来るバスは一時間に一本です。そしてそのバスも来年には廃止されます。つまり、私がいるところには高齢者が多い割に交通が不便なのです。

## ではどうすればいいのか？

今、地域では**地域タクシー**というものがあります。しかしそれはあくまでボランティア活動です。あまり知られていませんし、いきなり終わってもおかしくはありません。

なので、私はこの活動がもっと使われるようになり、いまよりもっと大勢の人が手伝っていただけるといいな、と思っています。

そのために今とにかく必要なのはもっと多くの人に手伝ってもらえるようこの活動を周りに知ってもらいそして沢山の人が利用してもらうことが今地域の大きな課題ではないのかと思います。

## ～根府川駅の問題点～

### ・根府川駅とは？

関東の駅百選にも登録されている無人駅です。景色がとても綺麗です。毎年、初日の出を見に沢山の人が来ます。

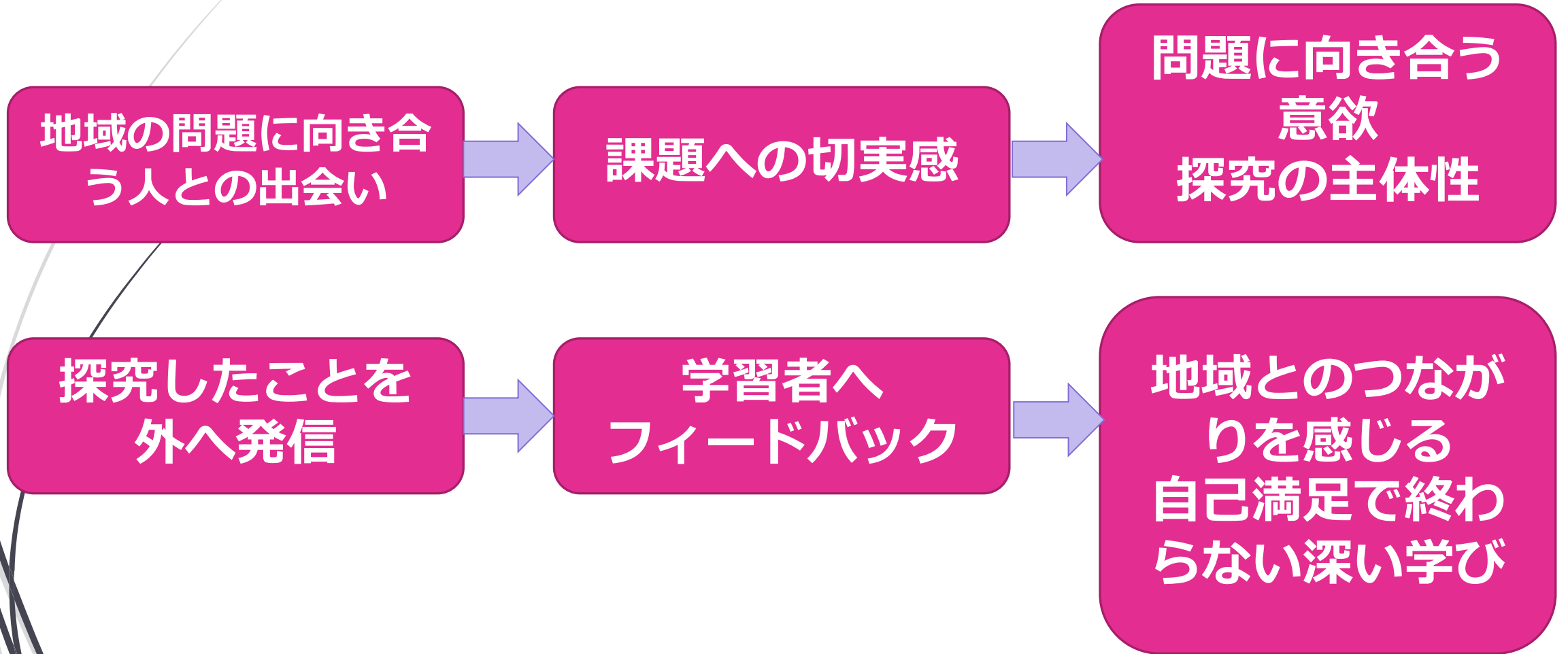


そんな根府川駅での問題点は**階段しかないところ**です。この駅の利用者は高齢者や、週末にはキャリーケースやベビーカーを引いた観光客が多いです。その人達にとって階段を登らなくてはならないのはとても不便だと思います。この根府川駅のレトロな雰囲気は残しつつ、**みんなが使いやすい駅**になって欲しいと思います。



関わりのありそうなSDGs

## 2-4. ③ 地域の人材や情報との出会いの場を設定 (=外部連携の重視)



## 3-1. 「小田原版STEAM教育」 推進の見通し（令和5年度）

- ① モデル校（1校）を指定し、全学年での実施およびその検証
- ② 共同研究員による授業実践（中学3年以外）
- ③ モデル校に所属する共同研究員は、授業公開
- ④ 各中学校1名で構成する「総合的な学習の時間連絡協議会」における共同研究やモデル校の取組の共有

## 3-2. モデル校での取組

- ▶ 各学年の総合的な学習の時間において実践
- ▶ 学校全体で取り組んだ実践の成果や課題を市内中学校に報告・周知。（R5年度末の連絡協議会にて）
- ▶ 積極的な授業公開  
（基本的には共同研究の研究員の授業公開）

### 3-3. 教育研究所のサポート体制

- ▶ 小田原版STEAM教育を実施する上での助言
- ▶ 外部機関の紹介や仲介
- ▶ 探究的な学びを引き出す研修支援
- ▶ 研修・授業支援のサポートをより充実させるための委託業者を予定